

令和5年度 入学試験問題

総合問題

(国際地域学科 地域協働専攻)

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまでは、この問題冊子を開かないこと。
- 2 この問題冊子は表紙を含めて16ページです。
- 3 解答用紙は6枚、下書き用紙は1枚です。
- 4 受験番号は、すべての解答用紙の指定欄に記入すること。
- 5 解答は、横書きとし、解答用紙の指定欄に記入すること。
- 6 解答に字数制限がある場合は、句読点等も1字分とすること。
- 7 問題冊子・下書き用紙は、試験終了後、持ち帰ること。なお、いかなる理由があっても、解答用紙以外は受理しません。
- 8 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等により交換を必要とする場合は、手を挙げて監督者に知らせること。

問題 1

次の文章A (和英混合文) と文章B を読み、後の問に答えよ。(100点)

文章A

21世紀の初頭、ホッキョクグマが絶滅危惧種に指定された。(ア) 地球温暖化は、北極圏の流水量を減少させたため、アザラシの個体数を減少させてしまった。アザラシはホッキョクグマの主要な食料源であり、それらが無いと彼らはたちまち飢えてしまう。このことから、人々はホッキョクグマの置かれた苦境を以前より強く危惧するようになってきた。

Often the image we have of polar bears is that they are big, white, cute bears that live on polar ice, usually with their friends, the penguins. Even The World Wide Fund for Nature^{注1)}, for instance, sells (イ) a Christmas and New Year card showing polar bears and penguins that live happily together. Yet, in reality, they are, in many ways, poles apart; penguins live in the southern oceans and polar bears only in the north. If polar bears were ever introduced to the Antarctic, the penguin population would, without doubt, be wiped out. Penguins are flightless and they breed on open ground, with parents taking months to raise their single chick^{注2)}. All the polar bears would have to do is to run at them and the defenseless penguins would easily become victim to these efficient hunters.

But (ウ)? The answer is to be found in evolutionary biology. The polar bear evolved from the brown bear in Europe around 40,000 years ago, during the Pleistocene ice age^{注3)}. This was about the same time that humans began to extend from Africa to Europe. As the ice began to melt, polar bears moved further north, where they quickly adapted to the harsh environment. There they became dedicated meat eaters at the top of the marine (エ) food chain.

だから、人類が世界中に進出したのに対し、ホッキョクグマはそれとは逆に、氷に覆われた北極にとどまった。氷結していた世界の海が融解し、それ以降は二度と氷結していない。それゆえ、ペンギンにとっては幸運なことに、ホッキョクグマが南極まで移動する手段が無くなった。泳ぎの上手いホッキョクグマではあるが、そんな遠くまでは泳げない。事実、(オ) 北極圏に生息している全ての陸上哺乳動物は、南極には存在していない。

文章B

If we cannot accurately count how many species occur in a given area then, clearly, measuring its (カ) biodiversity is also going to be an estimate. <中略> It is important to note here that the majority of the information gathered to date on the geographical distribution of biodiversity is based solely on the number of species (usually within one of (キ) the better recorded taxonomic groups^{注4)} recorded in a given area. Thus the unit

of measurement is the species and relative biodiversity is expressed in terms of species richness of selected taxonomic groups. Even though these measures are crude, they do suggest some inequalities in distribution that are of significance for conservation.

Species are not distributed evenly among higher taxonomic groups and most belong to those taxa^{註5)} that are least appreciated and understood. To anyone cataloguing species on earth it quickly becomes apparent that in terms of species number, the world is dominated by the Class^{註6)} Insecta and its close relatives (other Arthropods^{註7)} such as spiders). Of the species currently described, more than half are insects. Some of the best known taxonomic groups such as the mammals and birds, in which most species are already described, actually make up a small proportion of the total species. But what would the proportions look like if all species, known and unknown, were included? Based on the current estimates, species richness is likely to be dominated by the insects to an even greater extent than estimates currently based on named species. Other poorly recorded taxa, such as the algae^{註8)}, fungi^{註9)} and perhaps deep-ocean invertebrates^{註10)}, will probably rise as a proportion of the total as our knowledge of them advances.

(ケ) Across a whole range of taxonomic groups there is a tendency for species richness to decrease from the tropics to the poles (Fig. 1). A decrease in species richness of American land birds from the tropics of Central America to the Arctic tundra^{註11)} of northern Canada is shown in Fig. 2 (図は省略). This pattern is mirrored for many taxonomic groups, but is often complicated by physiographic^{註12)} and climatic factors such as mountain ranges and (ケ) patterns, respectively. This is shown in the pattern for American land mammals and for tree species. In both, the general trend is for a decrease from the tropics to the poles, but in mammals, species richness increases in the Rocky Mountain ranges, whilst trees reach a high species richness in the moister climate of the southeastern USA. Across all species, there is also a trend for decreasing species richness from low to high altitudes.

注1) The World Wide Fund for Nature : 世界自然保護基金

注2) chick : 雛

注3) the Pleistocene ice age : 更新世 (約 258 万年前から約 1 万年前までの期間)

注4) taxonomic group : 分類群

注5) taxa : 分類群

注6) Class : 綱 (生物の分類階級の一つ)

注7) Arthropod : 節足動物

注8) algae : 藻類

注 9) fungi : 菌類

注 10) invertebrate : 無脊椎動物

注 11) tundra : ツンドラ

注 12) physiographic : 地形学的

問題の作成にあたり、次の文献を用い、一部を翻訳および改変した。

永田博人, ジェラルディン A. トウイリー著『Mysteries in Science 科学の不思議～動物・人体・生命・宇宙・進化の世界～』南雲堂, 2016 年

Andrew S. Pullin: *Conservation Biology*, Cambridge University Press, 2002

問1 下線部（ア）に関する国際会議が1997年に日本で開催され、COP3と呼ばれている。また、下線部（カ）に関する国際会議はCOP10と呼ばれ、2010年に開催された。これら国際会議の開催都市として適切な組み合わせを、以下の①～⑥から一つ選び、数字で答えよ。（2点）

- ① 京都－札幌
- ② 京都－名古屋
- ③ 京都－福岡
- ④ 大阪－長野
- ⑤ 大阪－名古屋
- ⑥ 大阪－福岡

問2 下線部（イ）は心象（イメージ）であり、現実には起こりえない。文章Aの第二段落に即して、その理由を二つあげ、日本語で答えよ。（10点×2）

問3 以下の英単語を並び替えて、空欄 に適切な文章を完成させよ。（5点）

the / South / Pole / bears / polar / there / no / at / are / why

問4 下線部（エ）とよく似た用語に food web があるが、これら用語の意味の違いについて説明した以下の文章中の空欄（ a ）～（ d ）に当てはまる語句を日本語で答えよ。（2点×4）

（ a ）とは、生態系を構成する生物種を（ b ）と被食者に分けた場合、（ b ）が別の生物種の被食者になるなどして、鎖のようなつながりを持っていることを示す言葉である。一方、実際の生態系では、（ b ）が単一の生物を食べることはほとんどなく、この関係は複雑な（ c ）状になることが普通であるため、このような関係全体を示す用語として（ d ）が用いられる。

問5 長さ1mの最初の定義は、北極から赤道までの子午線の長さの1000万分の1の長さである。この定義を使って、以下の(1)と(2)の問いに答えよ。ただし、地球を完全球体と仮定する。また、円周率を3.14とし、計算過程を記せ。

(1) 地球の直径は何kmか計算せよ。(5点)

(2) 下線部(オ)の限界線となる北緯66度33分線を北極線という。北極線の長さは何kmか計算せよ。必要ならば、 $\sin 66.55^\circ \approx 0.917$ 、 $\cos 66.55^\circ \approx 0.398$ 、 $\tan 66.55^\circ \approx 2.31$ を用いよ。(15点)

問6 地球規模で見た場合に、下線部(キ)の条件をよく満たしているのはどの生物分類群と考えられるか。以下の①～⑥から二つ選び、数字で答えよ。(5点×2)

- ① 哺乳類
- ② 昆虫類
- ③ 藻類
- ④ 菌類
- ⑤ 鳥類
- ⑥ 樹木

問7 文章Bに即して、既に知られている生物の種数の内訳を、「昆虫類」と「昆虫類以外の生物」に分けて、円グラフに図示せよ。(10点)

問8 下の図は下線部(ク)の Fig. 1 のグラフである。文章 B および図の説明に即して、空欄(a) と (b) に該当する国名を、以下の①～⑥からそれぞれ一つずつ選び、数字で答えよ。
(5点×2)

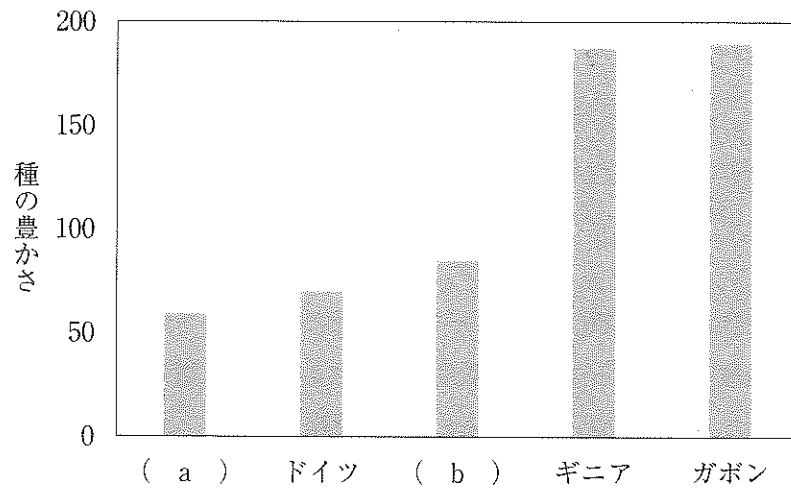


Fig. 1

Variation in species richness in mammals, among countries of similar size, but from different latitudes. This shows a progressive increase from high to low latitudes.

- ① 中華人民共和国
- ② カナダ
- ③ イタリア
- ④ ルクセンブルク
- ⑤ フィンランド
- ⑥ シンガポール

問9 空欄 (ケ) に当てはまる英単語を、以下の①～⑤から一つ選び、数字で答えよ。(5点)

- ① landscape
- ② pollution
- ③ elevation
- ④ rainfall
- ⑤ slope

問10 文章Bの内容として間違っているものを、以下の①～⑤から二つ選び、数字で答えよ。
(5点×2)

- ① 北米に生息する哺乳類は、ロッキー山脈付近で種の豊かさが低下する傾向がある。
- ② 一定の地域に存在する生物の種数は正確に数えることは難しい。よって、生物多様性保全において、種数について考えることは無意味である。
- ③ 藻類、菌類などの生物は、記録されていない種がまだ多く残されていると考えられるため、研究が進んでいくと、全体に占める割合も増加するだろう。
- ④ アメリカ合衆国の樹木の種の豊かさは、湿潤な条件の南東部で、より高くなる傾向があると言える。
- ⑤ すべての種を通じて標高が低いところから高くなるに従って、種の豊かさは低くなる傾向があると言える。

問題2

次の文章（和英混合文）を読み、後の問いに答えよ。（100点）

ローカルと日々は、人にとって人生劇場である。だが、終わりのない建築施工現場でもある。この劇場はどのような時でも、再建され、改造され、時には劇的な変更がある。ぼくたちの主人公はこの舞台に登場する。彼はある特定の場所と時刻にいる。そこで、生活とそれにまつわる問題に向き合い、何らかの選択をする。彼の観察対象であり、行為を起こす世界とは、彼の「ローカル」だ。それはどちらかといえば物理的に定義される環境というよりも、活動が及ぶ「広がり」に依存するといった方が適切だ。ローカルが何かといえば、(ア) ローカルとは世界である。個人かコミュニティによって可視化されているものだ。したがってローカルと言及されるのは、広がりといっても物理的距離の限界を示さない。むしろ人の限界を示している。ぼくたちが考え行うことはいずれも、当然ながらぼくたちの意識が向いているところから考え、あるいは動くしかできない。その現実を受け入れることだ。伝統的に小さな物理的な空間をローカルと呼ぶと考えるならば、そう考える人たちは、かつての個人とコミュニティは遠くまで見ることができず、同様にその近い距離感でしか動けなかったから、ローカルを物理的に狭く捉えたのである。今日、状況は変わった。(イ) グローバリゼーションの描写にはたくさんのアプローチがあるが、この変化はその一つとなっている。

社会学者のアンソニー・ギデンズは、グローバリゼーションとは「世界規模での社会関係の増大である。一つのローカルで起きることがはるか遠いところで起こることによって具体的な姿を見せる。その逆もある。このように距離が離れているローカル同士がつながる」と述べている。この定義でぼくの興味をひくのは、出だした。行動に特定の領域を持ち込んでおらず、あるいは何の価値判断もしていない。ただ一つの異彩を放つ基準を導入しているだけだ。それは、濃密で、急速な、相互に影響し合う幅広いネットワークである。一つの場所で生じることは他の場所で起こることによって、地理的位置とは関係なく影響を受けることがある。これがグローバリゼーションである。今まさに起きていることだ。相互に作用し合うネットワークがぎっしりとはりめぐらされている。そのインタラクションはものすごく速く、範囲はとてつもなく広い。ぼくたちにとってローカルなことは、ローカルで生み出すことができる。それがはるか遠いところで起きていることによって特徴づけられるのだ。この逆も然り。この拡張したローカルティ、すなわち (ウ) ハイパーローカルの境界線は、ぼくたちが属しているコミュニケーションのネットワークに依存している。したがって、ハイパーローカルこそがぼくたちの主人公が世界を見、行動する拠点になる。

〈中略〉

デジタル技術と新たなメディアの普及によって、民主的なプロセスが行われるコミュニケーション環境自体が変化し、(エ) 民主主義の領域でも新しい可能性が開かれた。(オ) 前世紀の民主主義をつかってきた慣習に対する挑戦でもあった。もう10年以上前、ブルーノ・ラトゥール^{注1)}はこの新たな

な可能性を「新しい民主主義の気配」と呼んだ。彼は、場、ネットワーク、プラットフォーム、デジタルメディアがまとまって作り出す、物理的でもありバーチャルでもあるハイブリッドな空間をこう表現したのだ。新しい民主主義の気配は、人々が共通の利益に関わる課題を話し合い、意思決定がなされて実行に移され、さまざまな活動へと広がるような公共の場をつくり出すはずだった。しかし知っての通り、実現しなかった。10年後、^(*) フィンランドで、著名な研究センターであるSITRA^{注2)}は次のように述べている。「テクノロジーの発展によって理論上は互いに深く結びつくことができる時代において、われわれは現に、差別、フィルターバブル [イーライ・パリサー^{注3)}が用いた語で、検索エンジンによって最適化された検索結果が、逆に自分に無関係なことや反対意見を表示しないフィルターとして機能し、偏った見地の情報しか得られないこと。またはそれにすらも気づかないこと]、集団均質化のような状況を、時代の大きな傾向として目撃している」。

Indeed, the diffusion^{注4)} of digital technology and the new media is having a devastating^{注5)} effect on traditional forms of democracy and, above all, on the representative democracy that until now has been the fundamental pillar^{注6)} of complex societies. The question is well known and amply^{注7)} debated: digital technology and connectivity allow the construction of delocalized^{注8)}, de-synchronized^{注9)}, and disintermediated^{注10)} social forms. To put it more simply, people can now interact without mediators, independently of the places they are in and the moment in which they choose to do so, hence the crisis of traditional political organizations and representative democracy. Moreover, this connectivity has also led to a short circuit between these unprecedented^{注11)} possibilities for disintermediation^{注12)} and the traditional idea of direct democracy. The outcome is the emergence of a scenario of permanent direct democracy: one in which everybody, or so they say, has the possibility of expressing themselves about everything in more or less real time.

〈中略〉

人々の考え方や意見は、これまでは大きな組織や団体 (^(*) 教会, 政党, 労働組合, 文化機関など) との対話ややりとりからかたちづくられていた。組織や団体には、アイデアを生成、収集、検証する役割、またそれ以外にも時間的にも空間的にもかなり隔てられた対話者をつなぐ役割があった。多くの制約がありながらもしっかりとその役割は果たされ、「大きな物語」[ジャン＝フランソワ・リオタール^{注13)}の提唱したポストモダンを構成する概念の一つ。科学が自ら依拠する規則を正当化するために使う語り口 (これを哲学としている) のことを示す。リオタールは、大きな物語に依拠していた時代をモダンとして、大きな物語が終焉した、つまり哲学を必要としなくなった時代をポストモダンと位置づけた]を土台にして、経験、知識、そして信頼できる政治家や専門家が絶えず生み出す専門的知見の保管庫として機能していた。つまり、人々がさまざまな考えを比較検討し、対話に基づいて自分自身の意見を形成する場を提供していたのである。

The proposed digital democracy, on the other hand, calls on everyone to say what they think, but it does not offer occasions in which to cultivate these thoughts, examine them in greater depth, and test them out against other opinions. In short, it does not offer the possibility of confronting (ク) with due time for the production of a well-pondered, autonomous opinion. Thus, we fall prey to^{注14)} the ideas of whoever shouts louder, whoever is more capable of compressing proposals into the limited space of a tweet—to the dramatic reduction in the (ク) of thought and the limited articulation^{注15)} and depth of opinions that this entails. This is accompanied by a gradual disappearance of public arenas for discussion, poorly substituted by talk shows (where people shout, but fail to discuss) and closed digital communities (where conversations develop between people who think in the same way). The outcome of this is a democracy where people exchange superficial, simplified opinions, more and more often based on the amplification^{注16)} of unfounded^{注17)} ideas and therefore potentially capable of generating monsters.

注1) フランスの哲学者, 人類学者, 社会学者

注2) フィンランドのヘルシンキに本拠を置く基金, シンクタンク

注3) 米国の文筆家, 活動家, 実業家

注4) diffusion : 普及

注5) devastating : 破壊的な

注6) pillar : 支柱

注7) amply : 十分に

注8) delocalized : 脱ローカル化した

注9) de-synchronized : 非同期の

注10) disintermediated : 仲介のない

注11) unprecedented : 先例のない

注12) disintermediation : 仲介がないこと

注13) フランスの哲学者

注14) fall prey to A : Aにとられる

注15) articulation : 表現

注16) amplification : 増幅, 拡大

注17) unfounded : 根拠のない

問題の作成にあたり、次の文献を用い、一部を改変した。

エツィオ・マンズイーニ著，安西洋之・八重樫文訳『日々の政治－ソーシャルイノベーションをもたらすデザイン文化』ビー・エヌ・エヌ新社，2020年

Ezio Manzini: *Politics of the Everyday*, Translated from the Italian by Rachel Anne Coad, Bloomsbury Visual Arts, 2019

問1 下線部(ア)の「世界」は何を意味するか。著者の意図する内容としてふさわしくないものを、以下の①～④からすべて選び、数字で答えよ。(12点)

- ① 可視化される広がり
- ② 物理的な空間
- ③ 人間が活動する範囲
- ④ 遠く離れている場所

問2 下線部(イ)について、経済学の視点からは、19世紀から20世紀初頭にかけて最初のグローバリゼーションが生じたとされている。この最初のグローバリゼーションの推進力となった、18世紀後半に英国で生じた経済社会上の歴史的変化を何と呼ぶか。漢字4文字で答えよ。(3点)

問3 下線部(ウ)の「ハイパーローカル」とはどのような状態を意味しているか。本文の内容に即して100字以内の日本語で答えよ。(20点)

問4 下線部(エ)について、以下の(1)と(2)の問いに答えよ。

(1) 民主主義の原型は、古代ギリシアのアテネで誕生したといわれている。古代ギリシアの民主主義に関する説明として間違っているものを、以下の①～⑥から三つ選び、数字で答えよ。

(2点×3)

- ① アテネの民主政を完成させたペリクレスの時代、市民権を持つ18歳以上のすべての男性と女性に参政権が与えられていたため、直接民主制が実現していた。
- ② 独裁政治を防ぐための「陶片追放」という仕組みが設けられていた。これは、僭主になるおそれのある人の名前を陶片に書いて投票し、一定の投票数に達した人を10年間、国外に追放するものである。
- ③ 当時のアテネでは、行政や裁判に携わる人を普通選挙で選んだ。このような普通選挙制を取り入れることによって、市民権を持つ市民であれば誰もが政治に直接参加できるようになった。
- ④ 当時の哲学者であるカントは、人間同士がお互いの人格を目的として尊重しあいながら生きる理想社会を「目的の国」と表現し、これこそが民主主義の完成であるとした。
- ⑤ 紀元前7世紀頃になると、アテネでは商工業の発達により裕福な平民たちが登場した。その後、彼らの要求を背景に、貴族政治を支えた部族制を廃止し、新たに設けられた行政単位デーモスなどにより、平民も政治に参加できるようになった。
- ⑥ 当時の哲学者であるアリストテレスは、国制について、多数者による共和制を良しとした。その理由は、王制は僭主制に、貴族制は寡頭制にそれぞれ転じる可能性があるのに対して、共和制は最悪でも衆愚制にとどまるからである。

(2) 古代ギリシアの都市国家には、人々が集まって議論をする公共の場が設けられていたが、それは何と呼ばれたか。以下の①～⑤から一つ選び、数字で答えよ。(3点)

- ① シンポジウム
- ② アゴラ
- ③ スペース
- ④ フォーラム
- ⑤ スタジアム

問5 下線部(オ)の「慣習」とそれに対する「挑戦」とはそれぞれ何か。本文の内容に即してそれぞれ40字以内の日本語で答えよ。(20点)

問6 下線部(カ)について、この国が2022年に加盟申請をおこなった、1949年設立の国際的な安全保障機構の名称を漢字で答えよ。(3点)

問7 下線部(キ)について、世界の宗教を信仰者数順に並べたとき、キリスト教、イスラム教に次ぐ第三位の宗教は何か。日本語で答えよ。(3点)

問8 空欄(ク)には同一の英単語が入る。最も当てはまるものを、以下の①～④から一つ選び、数字で答えよ。(5点)

- ① simplicity
- ② difficulty
- ③ complexity
- ④ serenity

問9 デジタル民主主義は「怪物」を生み出す懸念があると著者は述べているが、それはなぜか。本文中の著者の考えと合致する理由を、以下の①～⑤からすべて選び、数字で答えよ。(10点)

- ① 根拠のない考え方に基づく、表面的で単純化された議論しかできないため。
- ② データ通信量が増加することで、世界中のサーバーを動かす電力が増大し、地球環境への負荷が増すため。
- ③ 自分とは異なる意見に耳を傾ける機会が少なくなるため。
- ④ デジタル機器を使いこなせない市民が民主的なプロセスから排除されるため。
- ⑤ 非常に多くの意見が表明されて収集がつかなくなるため。

問10 以下の (1) ~ (5) について、本文中の著者の考えと合致するものに○、矛盾するものに×、どちらでもないものに△をそれぞれ答えよ。(3点×5)

- (1) 地球上では、どんなに離れていてもローカルでありうる。
- (2) ハイパーローカルはローカリティの度合いが強いことを意味するので、もし北海道がローカルなら、函館はハイパーローカルである。
- (3) デジタル技術と新たなメディアの普及により誰もが情報を入手でき情報発信できるようになったことで、民主主義は大きく進歩した。
- (4) いわゆるポストモダンの到来で、既存の「大きな物語」は終わったが、いわゆるビッグテックの到来で、別の新たな大きな物語が始まった。
- (5) デジタル時代の民主主義だからこそ、即応性のある意思決定が何より重要だ。